

第17期業績のご報告

(平成24年7月1日～平成25年6月30日)

平成 25年 9月 吉日
日本システムバンク株式会社
代表取締役社長 野坂 信嘉

当年度の我が国経済は、欧州債務危機の長期化、中国を中心とした新興国経済の成長鈍化の影響により、景気動向は不安定な状況が続きましたが年末以降、アベノミクス効果もあり円安・株高が進み、輸出企業の中でも大企業を中心に業績の回復が見込まれております。しかしながら日本経済全般としては、依然先行きは不透明な状況であります。

このような外部環境のもと、当社は主力事業でありますコインパーキング事業におきまして、引き続き新規駐車場の開設と、駐車場機器の販売及びメンテナンスに注力致しました。また分譲マンション事業におきましては、有限責任事業組合(以下LLP)より引き継いだ、残1棟の完売に注力致しました。

以上の結果、売上高は5,837,893千円(前期比105.7%)、営業利益は178,904千円(前期比72.6%)、経常利益は39,645千円(前期比36.1%)、当期純利益は4,517千円(前期比27.0%)となりました。

事業区分別の業績は以下の通りです。

【コインパーキング(以下CP)システム運営事業】

新規開設の駐車場は、早期に利益の出る物件に限定し開設数を50箇所程度に厳選致しました。既存駐車場は全駐車場を対象に、売上、コストの両面から専任担当による収益力改善を図りました。

また既存駐車場の付加価値向上を図るべく、電子マネー、クレジット対応の駐車場及び電気自動車用課金式の充電スタンドの設置を積極的に実施致しました。以上の結果、売上高2,589,057千円(前期比103.8%)となりました。

【コインパーキング(以下CP)システム販売管理事業】

運営会社の駐車場開設意欲の向上とコンサルティングセールスの浸透により、機器販売事業は堅調に推移致しました。またメンテナンス事業は、24時間365日フルメンテナンスを当社の最大の強みとして中期目標である管理駐車場1万箇所を旗印に、メンテナンス部員、コールセンターの人員強化及び携帯端末の利用による現場対応力の強化を図り、顧客満足度の向上に努めました。その結果、売上高2,291,349千円(前期比108.4%)となりました。

【プロパティマネジメント事業】

キャッシュフロー経営を重視し、収益力の低い自社物件を売却し、またその他の自社物件は満室経営を図り、売上高285,383千円(前期比100.5%)となりました。

【分譲マンション事業】

上半期において当社が取り組んだ分譲マンション3棟のうち2棟が完売致しました。下半期では最後の1棟となる福井駅西口「エリアス」の完売を目指し販売に注力致しました。その結果、福井駅西口の再開発の本格稼働、アベノミクスによる不動産の資産価値向上等の追い風もあり、堅調に販売数を伸ばして参りましたが在庫完売までには至りませんでした。売上高は671,802千円(前期比106.7%)となりました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

| 事業区別 | 金額 |
|---------------|-------------|
| CPシステム運営事業 | 2,589,057千円 |
| CPシステム販売管理事業 | 2,291,349千円 |
| プロパティマネジメント事業 | 285,383千円 |
| 分譲マンション事業 | 671,802千円 |
| その他 | 300千円 |
